

行雲流水

No.231 令和4年7月5日発行

目立たぬところでも、謙虚に力を発揮できる本校の強さ

校長 寒河江 正人

7月2日（土）、3日（日）、
山形市あかねヶ丘の「ネッツえがおフィールド」で
「全日本中学校通信陸上競技山形県大会」が開催されました。

グラウンドコンディションは、**気温36度を軽く超える猛暑。**
そのなかで、まさに「**熱い熱い戦い**」が繰り広げられました。

陸上競技に限らず、野球でも、サッカーでも、どんな競技会や大会などでも
「**選手**」だけでは、実施できません。

審判員などの競技役員はもちろんのこと、
各校の「**生徒たちによる補助員のはたらき**」なしには、運営はできません。

今回は、山形市内と北村山地区の中学生たちが**補助員**を務めました。
もちろん**本校の陸上競技部の生徒諸君**も、同様に**補助員**の仕事をしました。

今回、大会本部に控えていたところ、
ベテランの審判員の方が、私のところにやってきました。
「**いやあ、神町中の生徒補助員さんは、元気であいさつも礼儀もすばらしかった。**」
「**他の審判員さんたちも、みんな感心していましたよ。**」とのこと。

思いがけない「**お褒めの言葉**」をいただき、うれしく、誇らしくなりました。
補助員を務めた生徒諸君、ありがとう。

さて、もうすぐ**吹奏楽コンクール地区大会、県中総体、県中テニス選手権**が行われます。

「**主役となる選手**」の活躍をしっかりと支える「**裏方の仕事を担う人たち**」の働きを
決して忘れてはいけません。
目立たぬところで君たちを支えてくれている人たちの働きがあってこそ成り立つのです。
周囲への「敬意と感謝」。本当に実力がある者は、それを決して忘れないものです。